

## 昭和51年度第3回シグマ委員会幹事会議事録

日時 昭和52年1月17日(月) 11:00~17:00  
場所 日本原子力研究所東海研 研2棟304号室  
出席者 塚田(主査:原研), 百田(東北大), 大竹(動燃), 更田, 五十嵐, 田中(茂), 田村, 浅見(哲) (原研)  
欠席者 久武, 中嶋, 松延, 飯島, 桂木

### 配布資料

- 1 前回議事録
- 2 更田委員出張報告メモ
- 3 Preliminary announcement EANDC-104"A", NEACRP-286"A"
- 4 Mughabghab氏よりの手紙
- 5 OECD Nuclear Energy Agency NINF-A-63
- 6 1978 Conference on Nuclear Physics and Nuclear Data
- 7 NSDD評価についての経緯

### 議事

- 1 前回議事録確認
- 2 出張報告(更田委員)

資例(2)にもとづいて次のような報告があった。

- (1) Consultants' Meeting on the Evaluation of Actinide Neutron Cross Sections(1976年12月13-14日)への出席:TND Evaluationについての各国の状況が詳しく紹介され, 国際協力での evaluation は thermal ~ 15 MeV の full evaluation が対象であること, IAEA の research agreement と contract との関係等が述べられた。
- (2) Consultants' Meeting on Nuclear and Reactor Theory and Associated Computer Codes (1976年

12月15-16日)への出席:1975年のTrieste会議で勧告された会合の準備のために開かれた。Reactor theoryも含むことがわかったのが会合の直前であったので、これから炉物理委を通じて国内の炉物理関係者に働きかけることにした。

(3) NSDDに関する事項:次回のNSDD会合は1977年9月か10月にOak Ridgeである予定で、Mass Chain Evaluationのtraining courseを1978年にUSSRで開く可能性が高い。

### 3 Nuclear Structure & Decay Data 関係

田村氏より資料(7)にもとづいて、昨年5月のIAEAの会合以後の国内での経緯等について説明があった。また、NSDDのNumerical Data systemおよびBibliographic Data Systemの解説があり、日本としては $A = 101 \sim 112$ のevaluationを相当する案のあることが紹介され、作業は燃料計量専門部会のWGとしてやる予定であること等が述べられた。Dr. Pearlsteinへ出す手紙(案)の検討を行った後、討論が行われ、作業には現在のシグマ委外の核物理屋にも協力してもらう必要があること、とくに坂井氏にはアドバイザーとして加わってもらう必要があるとの意見が出た。旅費、テーブル利用サービス等今後具体的に考慮すべきことはあるが、作業の基本的な考え方についてはほぼ了承された。

### 4 組織検討特別小委員会報告(五十嵐委員)

11月29日の小委員会の討議が報告された。討議は本委員会のことに限定して行われ、今までは報告事項が多く、専門的討議が少なかったことが指摘されたこと、幹事会を定期的に行うこと、幹事会の権限を強化すること等の意見が出たことが述べられた。次回までに整理して報告してもらうことになった。

### 5 学会誌特集企画

FP, アクチナイド核データの特集についての提案が化学関係の人から出ている。次回に具体案をもとに検討することとした。

### 6 52年学会年会企画

更田委員より、原子力学会春の年会(近畿大)における総合報告およびインフォーマル・ミーティングの予定が紹介された。

## 7 JENDL-1について

五十嵐委員より、JENDL-1のデータのベンチマークテストを行ったところ結果は良好であったこと、この結果と最近の測定データとを参考にして $^{239}\text{Pu}$ のデータを部分的に手直しをしていることが報告された。

## 8 WRENDAについて

五十嵐委員より次のことが報告された。1975年の作業結果を現在レポートにしている。1976年度におけるfission reacton関係のrequest調査を行い、約20件のrequestが寄せられた。Highlighted requestのリストを作る作業を終えNEANDCへ送った。この結果は近くJAERI-Mレポートとして出す。

## 9 52年度委員会活動方針と53年度予定

更田委員より、原子核データ室の52年度予算の大蔵内示額が紹介され、実行計画に関して各WGのリーダーに問合せ意見を聞くことになった。

## 10 Pre Symposiumについて

塚田主査より9/5~10のTokyo Confのpre symposiumを行う場合には、2月末までに核研へ連絡することが紹介された。

## 11 Specialist Meetingのアナウンス

塚田主査より資料(3)について紹介があり、このannouncementを本委員会各委員に送るとともに核データニュースに掲載することとした。

## 12 核データのRegional Conference

塚田主査より資料(6)について説明があり、案内を本委員会各メンバーに送ること、核データニュースに掲載すること。原子力学誌および物理学会誌に掲載依頼を出すことになった。

## 13 Mughalghab氏より更田氏への手紙

更田委員より資料(4)のBNL-325の改訂についての問合せの説明があり、事務局へ意見を出してもらい、まとめて返答することになった。